

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム金さん銀さん(金さん)	評価実施年月日	平成20年12月3日
評価実施構成員氏名	宮坂友三・手塚万理子・曾我部智晃・五十嵐恵子・岡田真弓		
記録者氏名	宮坂 友三	記録年月日	平成20年12月8日

北海道

は外部評価項目

グループホーム 金さん銀さん（金さん）

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p> <p>地域密着型サービスとしての地域での活動や連携を常に意識できるよう、職員はその「運営理念」を常に携帯し、日常の業務の中で「利用者が快適でその人らしい暮らしが続けられる」ことを職員が互いに確認し合い共有されている。</p> <p>○</p>		
2	<p>○理念の共有と日々の取組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p> <p>管理者、職員は毎朝のスタッフミーティングで理念の唱和を行い、その重要性や理念にそっての日常の業務や活動に対して、話し合いを行っている。</p> <p>○</p>	○	理念に関してニーズに即した具体的な内容に取り組んでいく
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。</p> <p>地域の中では民生委員の方々の見学会も行っていただき、町内会との相談等も少しずつ取れるようになってきている。地域の保育園等にも園児の協力を得て慰問していただき、今後も継続できるよう取り組んでいる。</p> <p>△</p>	○	ホーム内での活動や地域参加の報告等の通信を年企画からでも作成し、理解が得られるよう調整。
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p> <p>町内会行事への参加も行っていけるよう、町内会長との連携と町内会会員となつての活動にも取り組めるよう調整中、また、同じ敷地内にある他の事業所の職員や近隣の人たちとも交流が行われるよう、管理者や職員が挨拶や相談を行っている。</p> <p>○</p>		
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p> <p>町内会の盆踊りに参加している。また、地域の保育園、中学校からの慰問等で交流を行っている。併設するデイサービスに通われている地域の友人方との関係も継続できるよう交流できるよう支援している。</p> <p>○</p>		
6	<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p> <p>地域町内会で行われる清掃や草むしり等には職員が参加させてもらっている。今後は町内会での企画等には利用者も含めた参加を予定していく。</p> <p>△</p>	○	併設する事業所とも話し合い、地域の方々との交流を深めながら事業所として行えることから取り組んでいきたい。

グループホーム 金さん銀さん（金さん）

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	○	職員ひとり一人が常に意識して業務等に取り組める状態にしていきたい。
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	○	成年後見制度の研修会に参加をしたり、勉強会を開催し職員に制度の理解を深めるように取り組んで行く。
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	○	拘束委員会の具体的な活動と取り組みの実施。職員の理解の浸透。
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>		

グループホーム 金さん銀さん（金さん）

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
<p>13 ○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>運営推進会議等の利用者の出席や日常の暮らしの中で、気軽に意見や要望を伝えられるよう配慮し、検討した上で運営に反映できるように調整している。運営推進会議の内容は行政に報告され、新たに意見箱の設置し直接家族等にも意見を求められるよう努力している。</p> <p>○</p>		
<p>14 ○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。</p>	<p>利用者家族の訪問の際に日常生活状況について報告している。必要に応じて電話や家族宅訪問により状況の報告を行い、気軽に相談し合える関係を継続できるよう理解を求めている。</p> <p>○</p>		
<p>15 ○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>意見箱の設置や個別に家族への「ご意見の依頼」を送付して意見を求めるようにしている。運営推進会議には家族への参加依頼を行い、運営推進会議での内容に関しては運営に反映できるよう前向きに検討されている。</p> <p>△</p>	○	<p>日常的に家族等の訪問時に気軽に何でも言ってもらえるような雰囲気づくりを行っていきたい。</p>
<p>16 ○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>現状、定期的にユニットごとの全体ミーティングを行い、職員の意見・提案を聞く機会を設けている。必要な改善に対して運営者に報告し反映できるようにしている。</p> <p>○</p>		
<p>17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>職員の勤務可能な時間帯の把握や、必要に応じて職員の確保が行えるよう努めている。職員同士での話し合いで必要に応じての勤務変更の調整も行き、報告により確保できるよう努めている。</p> <p>○</p>		
<p>18 ○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>職員の移動や離職等に関しては極力避けられるよう配慮しているが、代わる場合には、後任者が利用者との関係づくりから築けるよう他の職員も配慮している。</p> <p>△</p>		

グループホーム 金さん銀さん（金さん）

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	○	外部研修の機会を各職員が交代でも意欲的に参加できるようにしていきたい。
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	○	各職員も外部事業所との交流が持てるよう調整し質の向上に取り組んでいきたい。
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	○	運営者と管理者・職員の気軽に話し合いを持てる機会を増やし、理解し合いながら日常の支援が行えていけるよう取り組んでいきたい。
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	○	資格や知識の習得に関して向上心が持てるためにも、積極的に研修会や勉強会への参加が行えるよう計画を充実させていきたい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	○	本人の思いに向き合い、本人も職員も互いに受け入れられるような関係づくりが出来るよう取り組んでいきたい。
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>		初めて相談に訪れたとき、利用を希望しての相談となるケースは多く、家族の状況を把握し、求めているものを理解し、事業所として出来ること出来ないこと、どのように対応できるか、事前に話合っている。

グループホーム 金さん銀さん（金さん）

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居希望での相談が多い中、担当ケアマネや入院先への相談を行いながら今後のサービス利用に関して対応するようにしている。 △		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	本人と家族が事業所を見学してもらうことから始め、本人と家族と一緒に宿泊できる機会を作り、家族と職員で協力しながら事業所での生活が安定するのを見極めて、安定的な利用に以降できるようにもしている。単身の場合も前もって関係作りから行うようにしている。 ○		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	職員は入居者と共に暮らしの中で苦しみ、不安、喜び、哀しみ、などの本人の思いを共感し、理解して支援する側、支援される側という意識を持たず、お互い協働し声かけしている。 職員は調理やその他の家事等に関しても、利用者から「教えてもらう」気持ちを持って関わっている。 ○		
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	利用者の日々の状況等に関しては面会に来られた時に報告できるようしているが、日常的に家族も一緒になつての支援は少ない。 △	○	気軽に家族が来所して、家族も一緒に行える活動を増やして行きたい。
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	利用者とその家族の事情等を考慮した上で、家族との関係にストレスの感じない関係を継続できるよう情報収集や家族の思いを支援するようにしている。 △	○	これからの支援を受けながらでの生活の中で、本人の思いと家族の思いが互いに理解し合える関係づくりを積極的に支援していきたい。行事への参加→頻回な訪問→日常的に共同で行える生活の援助
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	併設の通所介護にきている知人、友人との交流は定期的に行っている。通院されていた病院も今までと同じ主治医に診てもらえるよう支援している。 ○	○	昔から利用しているお店、床屋、美容室、洋品店等の情報を聞き、また継続して利用し交流が出来るように取り組んで行きたい。 家族にも協力を得ながら、今までの馴染みの関係を維持できる支援を強化。

グループホーム 金さん銀さん（金さん）

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
31 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	個別に相談等を持ちながらも他利用者との関係づくりに意識しながら、居間を中心としたくつろげる場所の提供に努め、日常の家事や作業(毎日の洗濯物の整理や食事・食後の片付け等)を利用者同士が一緒に行え関わりが持てるよう支援している。 ○		
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	利用終了後は許せる範囲で、家族等にその後の様子について教えてもらうよう連絡を取り、支援できる事があれば等確認させてもらっている。 △	○	家族や関係者との確認を行いながら、行事等への参加や他の利用者との交流が継続できるよう支援していきたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々のかかわりの中で声掛け、行動、表情、言葉など入居者を良く観察して本人の視点に立って支援している。 ○		
34 ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	相談時に自宅に訪問し、ご本人やご家族、関係者等から聴き取っている。 △		
35 ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	入居者一人ひとりの出来る事・出来ない事に注目して生活、行動、小さな動作等その人全体像から把握するよう努めている。 ○		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	日々のかかわりの中で声掛け、行動、表情、言葉など入居者を良く観察し、家族や関係者からも情報を得るようにしている。日々の状態において毎日のミーティングの中と定期的な個々に関する話し合いを持ち、介護計画を作成・見直しを行うようにしている。 △		

グループホーム 金さん銀さん（金さん）

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
37	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監視のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>		
38	<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>	<p>通院、買い物、送迎等の支援は全て対応しており、個々・家族の満足を高めている。</p> <p>○</p>	<p>家族の状況を理解した上で、家族も気軽に参加できる体制を支援していきたい。</p>
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	<p>○ 地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。</p>	<p>○</p>	<p>町内会活動や文化・教育機関の活動にも積極的に出向いていけるよう支援していきたい。</p>
41	<p>○他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。</p>		
42	<p>○地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。</p>	<p>○</p>	<p>成年後見制度が必要な利用者に、地域包括支援センター、社会福祉協議会等関係機関と協力して利用できるように取り組んでいきたい。</p>

グループホーム 金さん銀さん（金さん）

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援をしている。</p> <p>事業所の協力医の他、入居前からのかかりつけ医での医療を受けられるよう、事業所で通院介助を行ったり、訪問診療に来てもらっている入居者もいて、複数の医療機関と関係を密に結んでいる。</p> <p>○</p>		
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p> <p>提携医療機関が精神神経科医師であり、診断情報や治療方針、対応方法、認知症についての指示や助言をもらっている。</p> <p>○</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p> <p>事業所として看護職員は確保されていないが、同敷地内にある事業所の看護職員へは気軽に相談させてもらっている。また、かかりつけの病院看護師にも電話や訪問により相談させてもらっている</p> <p>○</p>	○	<p>入居者の普段の状態や個別の状態をよく知っている看護資格を有する職員の確保や訪問看護ステーションとの契約に基づき、日頃の健康管理や医療面での相談・助言・対応行い、提携医療機関との連携も密にとれる体制が確保されるように取り組んでいきたい。</p>
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p> <p>入院時には、本人への支援方法に関する情報を医療機関に提供し、頻繁に職員が見舞に行っており、看護師・医師と話しをする機会も多く、精神的な安定も含め対応可能な段階でなるべく退院できるよう、アプローチしている。</p> <p>○</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p> <p>病状の進行や重度化に関しては医師からの家族への説明が受けられるよう調整し、その上で今後の関わりや方針に関して運営者も含めて共有されるよう対応している。</p> <p>○</p>	○	<p>終末期に対する対応指針を定めるためのチームを作り事業所が対応し得る最大の支援方法、方針をチームで話し合いが出来るように取り組んでいきたい。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p> <p>必要に応じてかかりつけ医への受診を援助し、日常の状況等を報告しながら、必要な治療や支援に関してはかかりつけ医と相談の上、検討していくようにしている。現状は日常的に医療処置等の必要性がある入居者はいないが、日常的にも医療的な専門職との連携が図れるよう検討している。</p> <p>○</p>	○	<p>重度や終末期の入居者を支援するために、チームの連携、職員の力量、諸条件等を備え、本人や家族の意思を踏まえ医師、職員が連携をとり、家族と話し合い入居者が安心して週末を過ごしていけるように取り組んでいきたい。</p>

グループホーム 金さん銀さん（金さん）

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>他の事業所に移られる場合、アセスメント、ケアプラン、支援状況や注意が必要な点についての情報提供しきめ細かい連携を図っている。</p> <p>○</p>		
<p>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>			
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 ○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>排泄の援助や声かけに対しても他の利用者を意識して配慮した援助を行っている。必要な個人的な話が必要な時は、自室で行えるよう声かけを行っている。また、他者とのトラブルが発生した際にも、互いに負担とならないよう職員が援助している。</p> <p>個人情報の取り扱いについては各職員と守秘義務等についての取り決めが行われている。</p> <p>○</p>	○	<p>人前であからさまに介護したり、本人を傷つけてしまわないように言葉かけや対応が行われてか勉強会やミーティングの折に、職員の意識向上を図るとともに、入居者の誇りやプライバシーを損ねない対応が出来るよう取組んでいく。</p>
<p>51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>職員は入居者と過ごす時間を通して、入居者の希望、関心、嗜好を見極め、職員側で決めたことを押し付けるようなことはせず、複数の選択肢を提案して一人ひとりの入居者が自分で決めてもらっている。出来るだけ本人が意思を表せられるよう援助している。</p> <p>○</p>		
<p>52 ○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>一人ひとり体調配慮しながら、入居者のペースにそって見守りながらその日、その時の入居者の気持ちを尊重して、できるだけ個別性のある支援を行っている。日々の習慣も大切に、必要に応じての助言を行いながら関わりを持っている。</p> <p>○</p>		
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 ○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>朝の着替えは、基本的に本人の意志で決めており、職員は見守りや支援が必要な時に手伝うようにしている。</p> <p>身だしなみに関して本人が気づけるよう声かけや一緒に身支度できるよう支援し、衣服の購入等も家族の理解を得ながら買い物同行等支援している。</p> <p>○</p>		
<p>54 ○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>調理、盛り付け、後片付け等も入居者と一緒に行い、職員も一緒に食べている。</p> <p>時に味付けや調理の仕方に関しても、利用者に教えてもらえるよう声かけしながら、一緒に関わってもらっている意識を持てるよう支援している。</p> <p>○</p>		

グループホーム 金さん銀さん（金さん）

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	飲み物に関しては好みに合わせて利用者に確認しながらティータイムの時間を作っている。 お酒やタバコに関して現在は要求される方はいないが、今後の要望に応じて他の利用者との状況も含めて対応していく。 タバコに関しては施設内に喫煙場所を決めている。 ○	○	疾患や状況を家族・本人も理解した上で、本人の好みの物を気軽に買い物に行ける体制を整えていきたい。
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄チェック表を使用し、時間を見計らって誘導してトイレで排泄できるよう支援しており、本人の安心からパット使用の方が一人はいるが、基本的にはトイレでの排泄を継続できるよう支援している。 ○		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	現状は一日おきでの入浴を援助しているが、必要に応じて対応している。時間等に関しては日々の習慣も含めて支援し、その時の気分に対応して変更等も対応している。 ○	○	現状は一人ひとりの対応で入浴されているが、利用者同士の楽しみ等も含め一緒に入浴できる事も検討していきたい。 設備上の問題等もあるが夜間入浴対応も検討していきたい。
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう努めている。また一人ひとりの体調や表情、希望等を考慮して、ゆっくり休息がとれるように支援している。朝食等の時間の設定はされているが、本人の状況に応じて対応できるようにしている。 ○		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	食事づくりや入居者の経験や知恵を発揮する場面は作っている。 身体能力等も考慮しながら、それぞれの役割を持ってもらうように支援している。 (掃除や洗濯物の家事等) 依存傾向にある利用者への声かけやその時々状況での対応を行い、意欲の向上を図るようにしている。 状況を観察しながら気晴らしでの散歩等声かけするようにしている。 ○	○	遠出の外出や地域の行事参加等職員が一方的に決めず、入居者と相談しながら行えるように取り組んでいきたい。
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	家族の協力を得て小額のお金をもっている入居者もいて、買い物等自分で払っていたように支援している。本人の不安等もある場合は家族とも相談し、安心できるための支援を行っている。 ○	○	本人が金銭の所持や理解した使用が行えるよう家族とも相談し、金銭の所持や使用に関して自分で行えるための支援を利用者それぞれの立場で検討していきたい。
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	本人の希望に沿って外出等の予定を相談し、現状は職員同行での外出の援助を行っている。散歩等は職員が全員に声をかけ希望者での対応を行っているが、意欲的に参加できるよう関わりを持っていく。 ○	○	事業所の都合を優先したり外出を制限することもなく天気、本人の気分や希望に応じて、季節を肌で感じてもらい、心身の活性につながるよう日常的に散歩、買い物、ドライブ等に出かける事が出来るように取り組んでいきたい。 生活に必要な買出し等の役割が利用者にも持てるよう取り組んでいきたい。

グループホーム 金さん銀さん（金さん）

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	個別に本人の要望を受け止めて外出の支援を行っているが、他の利用者と一緒に出かける事は少ないのが現状のため計画を検討して増やして行く。 △	○	一人ひとりの思いや願いを実現するための方策を職員同士で検討し、支援につながるよう取り組んでいきたい。 家族の協力を得ながら、個別に対応できる働きがけに取り組んで行きたい。
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	家族や友人などに電話しやすい雰囲気作りを行っている。会話が他の入居者に聞こえないように子機を使用して個室で会話できるように支援している。 電話等により他者とのトラブルにならないよう配慮し支援している。 ○		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	訪問時間などは定めておらず、ご家族の都合のよい時間帯に、いつでも訪ねて来ていただけるように配慮している。 出来るだけ他の入居者や職員に気兼ねなく会話を楽しんで頂ける様、居室で一緒に過ごして頂き、本人に対しての訪問者として大切に対応できるよう、お茶等の配慮を行っている。 ○		
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束等の研修会の参加と研修の報告を行い、職員に理解を得るようにしている。また、同敷地内の他の事業所とも協力し身体拘束の委員会を立ち上げ、拘束に関して具体的な内容の意識付けが職員それぞれに浸透できるよう調整中。 △		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	職員が常に気にしながらの見守りを行い、日中、夜間も玄関・居室に鍵をかけずに自由な暮らしを支援している。 ○		
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	職員は入居者と過ごす時間を通して、入居者の希望、関心、嗜好を見極め、利用者の行動の把握や援助の必要性も見極めた上で安全に活動できるよう所在確認も含め配慮している。 ○		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	入所者の状況にせて、包丁・洗剤等の全ての物品を一律に管理するのではなく、保管管理が必要な物、入居者が使う時に注意が必要な物等は、保管庫に鍵を付け保管している。 ○		

グループホーム 金さん銀さん（金さん）

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	オール電化による火災等の予防や日常の状況所在の確認、服薬確認表のチェック、夜間や自室での休息時のこまめな訪問確認等、事故防止に取り組んでいる。事故に関する報告や記録を整理・保存し会議・勉強会等で職員の共有認識を図っている。 ○		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	全職員の救急救命等の研修はまだ行えていないが、救急時の連絡・対応についてはマニュアル化され対応できるようされている。 △	○	行政関係者や消防署の協力を得て、全ての職員が応急手当の勉強会に参加し、体験・体得・習得し再度マニュアルを見直し周知徹底を図って全ての職員が対応できるように取り組んでいきたい。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	消防署の協力を経て避難訓練・非難経路の確認・消火器の使い方などの訓練を定期的に行っている。 ○		
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	様々な役割・活動はリスクが高くなるものの、入居者個々の力の発揮や抑制感のない暮らしが入居者の表情を明るくし、自由な暮らしの大切さを説明し理解を得て取り組んでいる。 ○		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎日バイタルチェックを行い記録をつけ、体調や些細な表情の変化も早期に確認できるように注意し、職員間の連絡引継ぎも行っている。状況に応じて管理者に報告すると共に医療受診を行っている。 ○		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	処方箋のコピーをケースに整理し、職員が内容を把握できるようにしている。服薬時本人に手渡し、きちんと服薬できているかの確認をしている。 用法・副作用等に関しては処方された時に確認するように努めているが、確認表等の整備は調整中。 △		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	一人ひとりの1日の暮らし全体の中で食事・排泄・活動状態を見直し、散歩・家事活動等身体を動かす機会を適度に設けて、自然排便できるように取り組んでいる。 排泄チェック表も常に確認できるよう取り組んでいる。 ○		

グループホーム 金さん銀さん（金さん）

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後の歯磨きの声かけを行い、一人ひとりの力に応じて職員が見守ったり、介助を行ったりしている。就寝前は義歯の洗浄を見守ったり、介助を行っている。 ○		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事や水分の摂取量を毎日チェック表に記録し、全職員が情報を共有し夜間帯も支援している。 ○		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	職員共にインフルエンザ予防接種をうけ、ノロウイルス対策として、ペーパータオルを使用している。通院や外出時はマスクの使用を促し対応するよう予防の対応を行っている。 ○	○	全職員で学習して季節、地域の感染症発生状況の情報収集に努め細かく予防・対策に取り組んでいきたい。
79 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	まな板やふきん等は、毎晩漂白し清潔を心かけている。 食材に関しては毎日届けられる仕組みをとっているが、冷蔵庫内の食材管理に関して日々確認できるよう対応している。 ○(冷蔵庫内の日付管理)	○	必要な食材に関して利用者と共に毎日買い物に出かけられる体制を運営者とも検討し取り組んでいきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
80 ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	明るい雰囲気のある玄関になるように玄関先にプランターを置いてたりして季節感を演出している。 プランターに水やりに行った時に、近隣の人等との挨拶や交流が出来るよう取り組んでいる。 ○		
81 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節に合った飾りつけやトイレについてはセンサーで点灯し安心して利用できるようになっている。 食堂と別にくつろぎの空間が持てるようソファ等や畳の空間を設置し工夫している。 ○	○	生活感や季節感のあるものをうまく活用しフロア等の飾りつけや家具の配置を入居者と一緒に考えて、入居者が自分の住んでいる家だという意識を高めてもらえるように取り組んでいきたい。

グループホーム 金さん銀さん（金さん）

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
82 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	相談事や気の合った利用者同士が利用できるよう、必要以外は開放できる相談室をもうけ自由に利用できるようにしている。 ○		
83 ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	写真や小物等使い慣れた日用品が居室に持ち込まれており、安心して過ごせるように配慮している。家族にも相談し出来るだけ今まで利用していた家財道具を用意してもらえよう話させてもらっている。 ○		
84 ○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがなく換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	換気や温度調整について職員は常に意識し、利用者に対して必要性を説明しながら行っている。利用者の中には寒がりな利用者もいる中、居間への移動等を声かけしながら調整を図っている。 ○	○	各居室にも温度計等を設置し、入居者の様子をみながら調整するように取り組んでいきたい。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	家具の配置等、生活空間で転倒につながる原因はないか常に確認し入居者の状態にあわせて、手すりや浴室、トイレ、廊下などの居住環境が適しているかを見直し、安全確保と自立への配慮をしている。段差の無い環境になっているため、幅広く活動できるよう支援している。 ○		
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	必要に応じては本人が理解できるよう説明を繰り返し、本人が納得し本人の意志で活動できるよう支援している。自室を解りやすくするための表示等も行いながら工夫している。混乱や失敗した事の不安を軽減できるよう職員が配慮し、本人が意欲的にも低下しないよう関わりを持つようにしている。 ○		
87 ○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	玄関先にベンチを置いて、入居者が涼んだり、日向ぼっこができるように工夫しているが、現状は共同スペースで過ごされていることが多く、今後も単独でも好きな場所で楽しめる工夫の検討を行っていく。 △		ベランダにもプランターを置き植物を育て、季節感を味わえるよう工夫していきたい。

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	① ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	① 毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	①ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	① ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族 ② 家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③ たまに ④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	①大いに増えている ② 少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
98 職員は、生き生きと働いている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての職員が ② 職員の2/3くらいが ③ 職員の1/3くらいが ④ ほとんどいない
99 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない
100 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての家族等が ② 家族等の2/3くらいが ③ 家族等の1/3くらいが ④ ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)